

新潟県

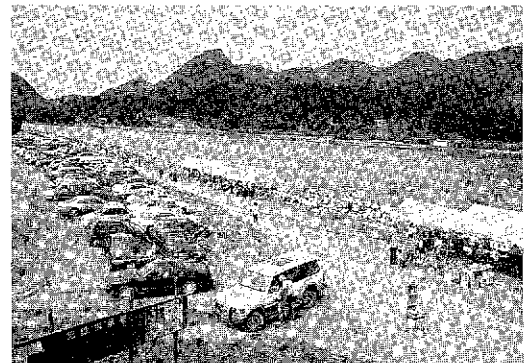
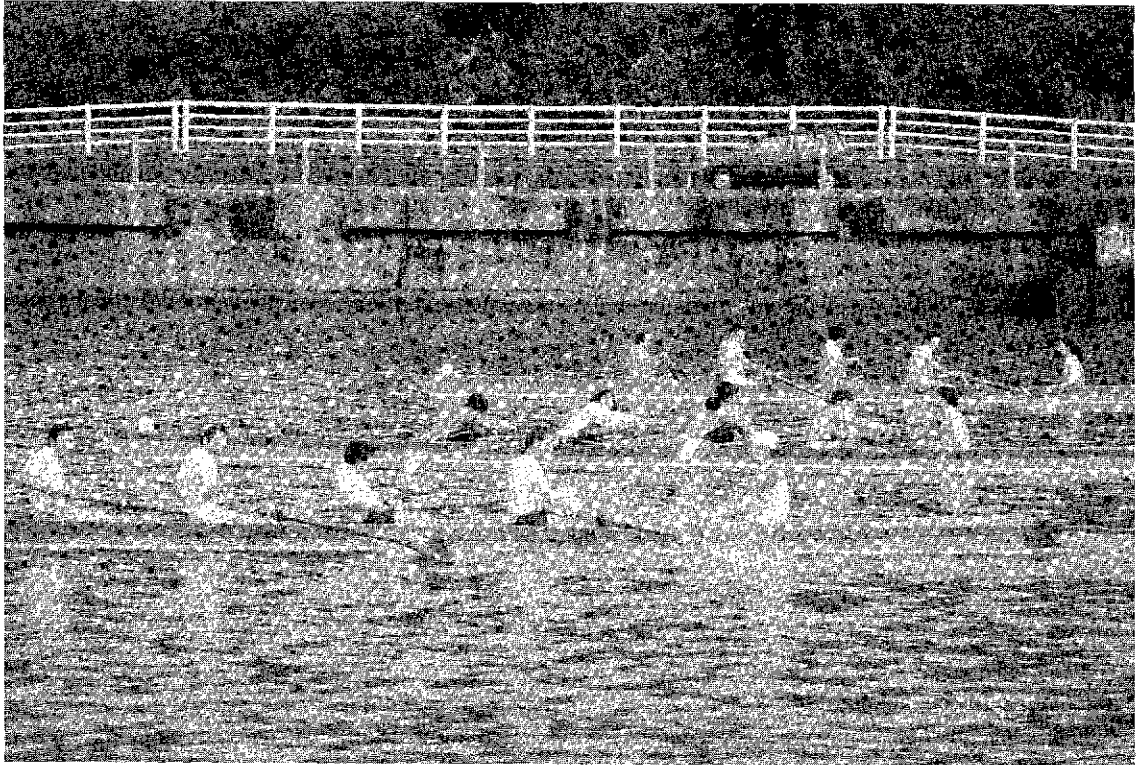
平成5年

公民館月報

10月

第488号

特集 ボランティア活動の支援と公民館



スポーツで広げる

仲間づくり・交流

そして地域の活性化

九月十九日好天に恵まれた津川漕艇場で第一回阿賀野川レガッタが開催され、郡内外から四十三クルーが参加し白熱したレースを展開した。

漕艇場は家族連れなどで一日中にぎわった。

(資料・写真提供)

津川町公民館)

第34回関東甲信越静公民館研究大会

東京都公連色浮き彫りに

住民主体の活動を強調!!

兼松講堂を圧する盛況



去る九月二日(木)三日(金)の二日間、わたり、東京都国立市の一ツ橋大学兼松講堂を主会場として、第三十四回関東甲信越静公民館研究大会が開催された。

研究テーマは「新しい時代をきりひらく!」住民の期待に「応える公民館を目指して」と題して、十五の分科会とパネルディスカッションによる研究討議がなされた。

主管の東京都公連の意欲的な取り組みによって斬新なアイデアが各所に見え、また、地の利もあってか千六百人余の参加者による大研究大会であった。研究大会の特色は、「お役所

的」な公民館運営に流されやすい昨今の風潮に鋭くさびを打ち込んで、「住民のための公民館」から「住民による公民館」運営への姿勢を打ち出した点がきわめて鮮明に印象づけられた研究大会であった。

パネルディスカッションでは「公民館は、地域や生活を変えているか」をテーマに次の登壇者により意見が交わされた。

その主張する大意は、公民館は官僚的運営になっていないかという自己批判であり、民衆化(島田氏の発言)の必要がある、に代表されていた。

◆「発言が少ないのではないかと様々な対応策を用意して望んだがその心配は杞憂であった。こんなに本音の話し合いができては思わなかった。公民館は、もっと障害者への対応に力を入れる必要を感じた。」(司会の馬場三次氏―新潟市石山地区公民館長の感想)

◆「とにかく障害者は公民館を利用したがっている。友達を欲しがっている。公民館事業の広報には「障害者もどうぞ」と一言書いてあれば気楽に参加できる」という発言にはショックを感じた。終了後他の都県の参加者から感謝とねぎらいの言葉をかけられ感激した。」(発表者梶瑤子氏―新潟市鳥屋野地区公民館社教主事の感想)

◆「新設分科会のせいか、車椅子の参加者を予想できなかったと見え、二階を会場にしたため係員が天手古舞をして気の毒だった。それにしても、発言が少なく司会が困るのではないかと心配したが、時間不足を来たす程に活発な意見交換ができて、参加者一同の顔にきらめくものが見えたのが大収穫(二助言者の青木昭平氏―黒埼町教育長の感想)」と、それぞれ部会の責任を果たすことができたことに安堵していた。

荏原 やえ子

中央大学文学部教授

島田 修 一

神奈川県相模原市

社会協常任委員

佐藤 進

国分寺市並木公民館

指導係長

松田 武雄

(司会) 埼玉大学助教授

◆ ◆ ◆ ◆ ◆

◆ ◆ ◆ ◆ ◆

◆ ◆ ◆ ◆ ◆

◆ ◆ ◆ ◆ ◆

◆ ◆ ◆ ◆ ◆

県立生涯学習推進センター事業

初級コース（後期）研修終わる

九月十六日(休)十七日(休)の二日間、県立生涯学習推進センター主催の「生涯学習指導者研修会初級コース(後期)」が同センター大研修室を主会場に開催された。

研修の内容は「話し合いの進め方」「学級・講座の開設と運営」「祝聴覚機器の活用と生涯学習」の三つで実施。内容と合わせて初任者に必要な基礎的な内容。参加者の大部分が前期研修受修者で四ヶ月ぶりの再会。その成長の目覚ましさに感嘆するばかりであった。(上村)

「話し合いの進め方」「学級・講座の開設と運営」「祝聴覚機器の活用と生涯学習」

視点

二十一世紀の超高齢社会に向けて、誰もが安心して住みやすい「福祉のまちづくり」が求められています。そのためには福祉諸制度の改革や施策の充実とともに、地域住民一人ひとりが福祉を自分のこととして理解し、そして参加するこ



福祉ボランティアと公民館

―福祉のまちづくりをめざして―

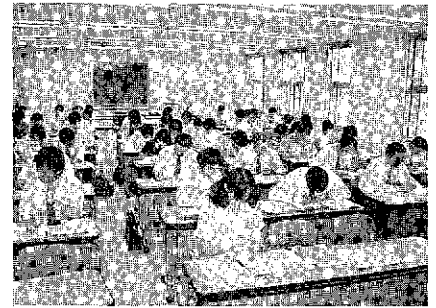
小林 孝

り、昨年度の調査では、一、五三〇グループの二四万人余のボランティアが地域で活動し、三年前の調査の約二倍、県総人口の一〇パーセントに相当する人々が、活動に参加す

るまでになっていす。これらのボランティアの中には、各地区の公民館を拠点として活動しているグループも多々見られ、「ボランティアの学習や研修」

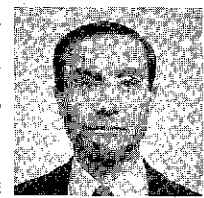
を始める、「一人暮らし老人等の給食サービス」の調理や昼食招待、幼児・児童への「絵本や紙芝居等の読み聞かせ会」及び「手づくりおもちゃ等の作業」等々

公民館を身近な拠りどころとして多様な活動が展開されています。住民の社会参加という点では、公民館における生涯学習推進などの第一線の活動も、地域住民や学校関係者から熱い期待が寄せられています。地域の身近な拠点としての機能がますます求められてくるものと思われま



地域の特性を生かした公民館活動を

大滝 正秋



今日の社会は「高齢化社会」「情報化社会」「国際化社会」と言われている。国の経済の高度成長によって、私達の生活は急速に向上し、各社会施設についてもまだ不満足ではあるがそれなりに充実されてきた。また、各福祉施設等についても充実しつつある。それにもかかわらず何か物足りなさを感じるのは何故でしょうか。

「公民館」私も公運審委員になるまでは、高齢者集会所、図書館、ダンス等のイメージで公民館を促してきました。しかし公民館事業のほのぼのとした、深さにはただただ驚くばかりでした。

住民の学習要求意識調査を実施し、各種要求に応えるために努力していますが、要求と参加意識のズレがあるのか、各種事業の人集めに苦労しているのが実情です。他市町村ではどうで

ひろば

「高齢化・情報化・国際化社会」と住民の多様な意識変化に対応する為、公運審委員の情報交換、研修等の必要性を強く感じている今日このごろです。(蒲川原村中央公民館 運営審議会委員)

「高齢化・情報化・国際化社会」と住民の多様な意識変化に対応する為、公運審委員の情報交換、研修等の必要性を強く感じている今日このごろです。

「高齢化・情報化・国際化社会」と住民の多様な意識変化に対応する為、公運審委員の情報交換、研修等の必要性を強く感じている今日このごろです。

「高齢化・情報化・国際化社会」と住民の多様な意識変化に対応する為、公運審委員の情報交換、研修等の必要性を強く感じている今日このごろです。

「高齢化・情報化・国際化社会」と住民の多様な意識変化に対応する為、公運審委員の情報交換、研修等の必要性を強く感じている今日このごろです。

発表者紹介
保坂いよ子氏

上越市高土地区婦人会長
・元小学校教員、上越市婦人会理事、新潟県婦人連盟代議員監事を歴任
・上越市母子保健推進委員、高土地区健康づくりリーダーとして活躍中。

「ボランティア」には、学習ボランティア、福祉ボランティアなど様々である。また、かつては「無償の奉仕作業」という受け止め方が多かったが今日では「自己実現のため」が支配的である。ここでは、福祉ボランティアについて発表している。



保坂氏

課題を追って
支援と公民館
からの要約～
保坂 いよ子氏

一、公民館と地区婦人会

高土地区は上越市の東部に位置し、日本ワイン発祥の地といわれる岩の原ワインのあるところ。人情細やかな純農村地帯ですが、学習のために、上越市の中心部の公民館にでかけるには時間と経費がかかる地区です。

時代の変化の中で、過疎化、都市化、高齢化などの多くの問題を抱えている地区にとつて公民館(高土分館)は無くしてはならない施設になっております。

その理由は言うまでもありませんが、地域社会の連帯感醸成の場、人生八十年時代となり、子育てが終わってからの人生を健康で個性豊かに生きたい、そのため社会を見つめ自分自身を磨いていく場に、しかも下駄履きのままでいける生涯学習の場となるからです。また、高土地区の体育協会、婦人会、老人会、町内会長会、ボランティア「ひとふさの会」など各団体の拠点にもなっています。特に高土地区全世帯の60%を占める会員で構成する地区婦人会には大切な施設になっております。

高土地区婦人会は、その目的を①地区活性化のためのボランティア活動に自発的に参加する。②会の活動をおして自分自身を磨く。③自分の生活を楽

しむ。④共生の喜びを分かち合える仲間づくりとし、文化、体育、福祉、経済、広報の五部門ごとに公民館(高土分館)の運営方針に協調させ計画を立て活動を進めております。

二、公民館と「ひとふさの会」

1 「ひとふさの会」の誕生まで
昭和62年の春、公民館から高土地区に「地域おこし活動」の要請がありました。地区では福祉ボランティアの事業に取り組んだらどうかという話になりました。しかし、「ボランティア活動に参加してくれる人が集まるか」「継続的な事業として展開できるか」「介護ボランティアの技術は皆無」などの問題があり、受け入れは困難と考えました。

同じ頃、脳卒中の後遺症のある人たちのサークル「陽生会」から「屋外に出て仲間づくりをしたい、そのための手助けをしてほしい」という要望を受けました。「これは躊躇してはいられない。一緒になって行動し、その中から学ぼう、学びながら行動しよう」という考えが強くなり、婦人会員の皆さんに相談し、ボランティアの会を作りました。

2 「ひとふさの会」の誕生

その年の秋、まず公民館の玄関の階段に障害者が出入りに便利ないようにスロープを作っても良かったり、歌やゲームや食事指導の手伝いから始めました。そのかたわら、ボランティア活動を行なうために必要な知識技能の習得の必要を感じ、公民館にそのための相談をしました。公民館では早速日赤から講師を招聘してくださいました。家庭看護の講座(「家庭看護の基本」「寝たきり老人に対する食事」「洗髪」「用便の世話」などの実技)を学習しました。

・読み聞かせの基本
・手話の基本
・そしてそれらの練習といった内容でした。
また、高土地区の婦人会の役員研修として、上越養護学校や金谷の里を訪問して車椅子の介助を実習しました。その外に、市保険衛生課のボランティア講座に参加したり、婦人国内研修で福井のファミリーサービスの実態や、新潟市や、今市市のボランティア活動資料を取り寄せるなど学習の場を多方面に求めました。

3 「ひとふさの会」の組織

「ひとふさの会」の運営にあたっては、全地区民を対象とした地域ぐるみの組織づくり、規約やパンフレットづくり、提供会員申し込みカードの作成などなど多くの問題がありました。公民館の学習と資料をもとに、問題をクリアしながら、ようやく誕生することができました。平成元年のことです。(組織は表1を参照)

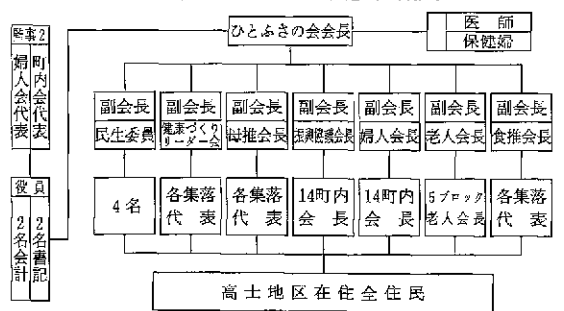
三、学習即実践活動

生涯学習でどんなに学んでも、学習したことがそのまま終わってしまったらもったいないことです。生きて働いてこそ価値があるというものです。その具体例を申し上げます。



第44回新潟県公民館大会

(表1)「ひとふさの会」組織図



シリーズ 暮らしの ボランティア活動の ～県大会シンポジウム 上越市高士地区婦人会長

1 「陽生会」のリハビリを兼ねた「張り絵の紙芝居づくり」や「牛乳パックでの椅子、小物づくり」はすべて公民館で学んだ技術です。それを使って身体の不自由な方々と一緒に作りま

2 もう一つは、聾啞者がおられるお宅のお嫁さんに、高田地区館で学んできた手話の手ほどきをしましたところ、それまで市の保健検診に「言葉が通じないから」と受けたことが無かった人がお嫁さんの付き添いで検診を受けられるようになり

3 更にこの手話が発展して、子供たちにボランティアの心を育てたいという会員の声が出てまいりました。今、私達は子供を対象とした手話教室を開いてお



ります。約60名(子供40名と大人20名)が参加し学習しています。これからは毎月一回開催する予定です。

4 このような「学習即実践」の活動は更に、個人の活動へも広がっています。例えば理髪業を営むMさんは、自分では食べ

「ひとふさの会」の活動時間は年とともに多くなっています。「陽生会員」も始め九名だったのが今では十七名とふえました。そして、曲がった手を人に見られることを嫌がっていた

り、人の世話になりたくないという頑なな気持ちが無くなり積極的に活動の輪の中に入られるようになってきました。

四、残された問題

(1) 兼業農家が多く保守的な面を持つているこの地区では「自分の家の畑の草取りもしないでボランティアとはどういうことか」とか「人様の世話にならな

(2) 育児・家事・介護は女性の仕事といった性別役割分担意識が強く残っているので、ボランティア活動には男性の参加がま

(3) 兼業農家が多いせい、昼間は市街地よりかえって顔を合わせる機会が少ないという現象が生まれています。個室化現象というのでしょうか。そのような家庭や地域が高齢化してい

(4) 比較的大家族の家では、血縁による介護とか互助をしてきた地域です。何の不便も感じていない家も多いので、互助による行き方への意識改革が必

(5) 活動資金の問題や無償・有償の問題、地域ケアの場のこと、ジブシーのように公民館や小学校を借りて給食サービスをするなども、解消しなければならぬ問題もあります。

五、おわりに

このような、地域ぐるみのボランティア活動にするまでいろいろと困ったことや感ずるところがありました。

次には、社会教育施設にボランティアを置くための条件づくりをしたいと「読書ボランティア」を

「文責編集部」

自治公民館の活動

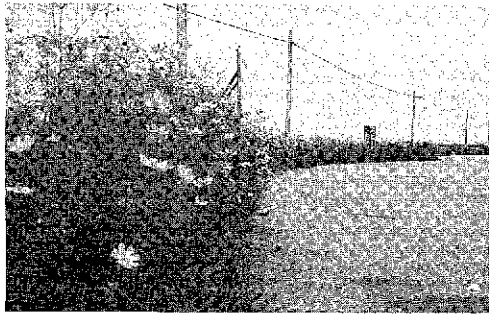
神林村川部集落の場合

一、はじめに

神林村は新潟県の最北岩船郡内のほぼ中央に位置し、人口一万一千人余、米作を基幹産業とする純農村である。

公民館は中央公民館のもとに村内小学校区単位に五地区館を配し、地域に密着した公民館活動を展開している。更に、村内三十九集落に、地域の特色を生かした自治公民館活動がある。

ここに紹介する川部集落は、神林村の南東に位置し、荒川町と境を接する、戸数四十七戸、



コスモス街道



文化祭での大正琴愛好会の発表

人口二百人余の集落である。

平成元年度から二か年間、村の生涯教育モデル集落の指定を受け、集落を挙げて計画的な事業の展開など生涯学習に取り組んでいる。活動の拠点は公会堂（昭和五十年年度に新築）で、集落内には、国指定「平林城址（要害山）」、村営児童公園、村立保育園、清流一級河川荒川などがあり自然環境には恵まれている。

二、活動の概要

従来は、集落内各団体が独自

にばらばらな事業を実施してきたが、年度のはじめに各団体長集落役員からなる行事調整会議が組織化し、行事を調整し、事業層を作成して各戸に配布している。その内主な事業について紹介すると次のようなものである。

1 花いっぱい運動

五年前から、集落のメイン事業に位置付けられているもので、活動の主役は「ふる里の会」（40歳～50歳の男性十五名で組織されている会）の会員が中心となつて事業の推進にあたつている。

平成元年度には、児童公園周辺に桜の木を植樹

平成二年には、全世帯に桜の苗木を配布して「花いっぱい運動」の普及啓発をした。

平成三年には、集落を縦貫する幹線村道二軒メートルの両側にコスモスを植え、コスモス街道づくりに着手した。これは現在も継続した事業になつているばかりでなく、コスモスの種子を採取し、広報

「長峰」秋号と一緒に「ふる里の記念品」として、村から離れている人たちのもとへ送つて喜ばれている。

平成四年からは、集落内の空き地に花壇を作り、四季に咲く花々を植え、花いっぱい運動

ふる里づくり」に取り組んでいる。

2 「ミセス懇話会」の開催

連帯意識の強いはずの農村でも、近年は村外から嫁いできた人たちの顔がよく分からないなど連帯意識の希薄化の傾向にあることから、若妻と村人とのコミュニケーションを深めるため、「ミセス懇話会」を開いている。

十四名の若妻たちを対象に、集落の役員が中心になつて、懇話会の和やかな雰囲気の中に、集落の組織や行財政、集落行事などについての説明により集落への理解を深めている。集落への理解が深まるにつれて、嫁いできたわが集落への愛着が深まつていくことと共に関係も深まりつつあるようである。

また、学習の一環として講師を招きエイズについての講義を聞く研修も実施し好評を博している。

3 「座禅会」の開催

これは小学校の一年生から六年生までを対象に、夏休み期間中に三回実施しているもので、一回の参加人数は20人から25人程度であり、指導に当たっているのは千眼寺の住職さん。参加した子供たちは、足がすく痛かったとか、礼儀作法や心を落ち着かせることの大切さが分

かったとかさまざまな反応を示している。

なお、親たちからは「子供の健全育成に役立つ」という声

4 広報紙「長峰」の発行

編集から発行まですべて「ふる里会」の会員十五名によって手分けをして行なっている。

原稿依頼は集落の全世帯にお願いしているのだが、なかなか原稿が集まらないのが苦勞する

ところではあるが、村外の同郷会員や集落外の人からも近況や出来事などの原稿を提供してもらい年三回発行している。

発行部数は二百～二百五十部で、経費は「ふる里会」の予算で賄っているが、集落外の送付先から切手の現物寄付などもう

けている。

配布先は集落全戸と、集落外にいる出身者の全員に送付している。

三、おわりに

以上の事業のほかにも、「さなぶり登山」「盆踊り」「文化祭」など年間の多くの事業をとおして集落を挙げての地域づくりに取り組んでいる。

(神林村公民館長鈴木子吉記)

サークル交流

体も心も元気いっぱい!!

見附陶芸会

私たちの見附陶芸会は、発足してから八年目に入りました。

ここ、北谷公民館(民俗文化資料館併設)で毎年開講される陶芸教室を受講された、土いじり大好き人間ばかりのグループです。ここは周囲を小高い山にかこまれた環境抜群のところにあり、陶芸の設備も、本窯をはじめ設備も充実しております。ただ今、会員は二十五名程の小さな会ですが、四月、自作のお茶道具を持ち寄り外庭の櫻の木



の下でお茶会、五月、陶芸会作品展、八月各地の窯場見学研修旅行、十月には市展出品などスケジュール一ぱいを楽しみながらこなしております。

最近では、勤労者美術展などに出品し入賞された人もおられます。趣味を同じくする人たちが、日頃の雑事からはなれ、合い集い、語り又制作に熱中する。こんな刻を持つことの幸福を実感できるグループ作りが出来たら最高だな。と思っている今此の頃です。

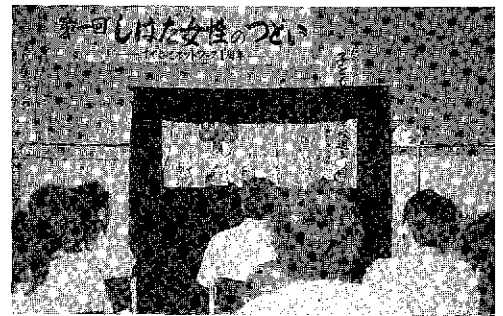
(見附陶芸会加野大助 記)

女性の社会参加

実現を目指して

新発田すてきにネットワーク

- 「すてきにネットワーク」一県婦人リーダー研修会終了者で構成する新発田の会です。平成三年八月に発足しましたが、若い人あり、年配者ありでなかなかにぎやかです。会の目的は、
- ① 二十一世紀に向かって、国際社会や、高齢化社会に対するための学習をする。
 - ② 自己の持てる力を磨き、地域や社会に貢献する。
 - ③ 女性同士のコミュニケーション



シヨンを深め、理解しあう、です。

会員には、それぞれ所属する団体がありますので、イベントを行なう場合は、会員以外の人たちからも参加してもらえよう知恵を絞っています。たとえば、先日「しばた女性の集い」を開催し「子供のための学校五日制をすてきに」という主題で、家庭と地域のかかわり方や、なぜ今学校五日制なのか、などについて考えあいました。その時、婦人ボランティア(講座で学習し実践しているサークル)による郷土色豊かな指人形の上演やおにぎりパーティーを開いたことです。このようにして、参加意欲を高めるような工夫をしています。(佐藤キクエ 記)

金井町教委生涯学習課長 高橋三喜男 氏(歳)



「少々若いんですが」と大笑いしながら机から取り出したのが、この写真である。

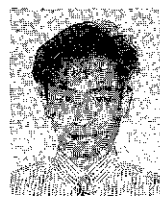
「六・七の厄払いが昨年だったというから、正に花の中年であり、頭のそれは相当くたびれてきている。だから、ふさふさ髪がこの写真は少々どころか大分若いのであり、大笑いは照れかくしである。しかし、無性に明るく憎めない性格で、何

(生涯学習課長加藤幹夫記)

素顔拝見

新潟市北地区公民館 主事 野本俊太郎 氏(25歳)

平成4年4月に、大学を卒業し、社会人として初めて勤務したところが当館です。



欠点も良き生涯のパートナーを射止めれば、すぐに解決すると思われませんが、本人は30才までは結婚しないと断言しています。

自ら「公務員らしからぬ公務員でいたい」と言うだけに、現代の若者を代表するような服装をしているが、仕事においては素晴らしい行動力を持ち、明るくそして何にでも興味を示す探索心を兼ね備えた当館のニューフェイスです。

しいて欠点を探しますと、お酒が大好きで、たまにお酒に飲まれることぐらいですが、この

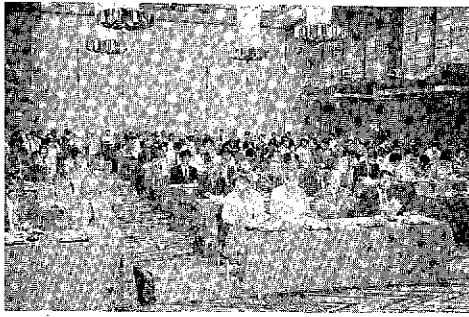
担当としては、濁川公民館事業と北地区公民館の青少年関係の事業を主に行ってもらっており、少年対象の事業に特に力を入れて頑張っていますので、素晴らしい指導者に育つのではないかと期待しております。(新潟市北地区公民館池田忠記)

下越地区公連主催

役員研修会開催

九月七日(火)八日(水)の二日間にわたり、月岡温泉を会場に下越地区公民館関係役員研修会が開催された。

研究主題は「急激な社会の変化に対応する公民館の在り方」と題し、第一日は基調講演とパネルディスカッションによる研究討議、第二日は前日のパネルディスカッションの指導講評ならびに、記念講演として、映画「阿賀に生きる」の製作もやま話と題する、撮影担当スタッフ小林茂氏の講演と充実した研修会



であった。なおパネルディスカッションの概要は次のとおり。伊藤氏「学校週五日制と公民館の在り方」に焦点をあてて鳥屋野公民館における、体験学習を通じて子供たちの健全育成を目標としつつ、①公民館は、子供のための社施設としての整備が必要。②学校に代わる受皿という消極姿勢ではなく、子供自身が数ある学習機会や方法の中の選択肢の一つとして対応すべき。③PTAの活動、町内会活動など地域活動の企画立案に対する援助や相談に応ずることの重要性を主張していた。

登壇者(敬称略)

- 新潟市鳥屋野地区公民館長 伊藤 高
- 新潟市中央公民館長 榎本 泰伸
- 中条町中央公民館係長 長野 正夫
- 弥彦村公民館長 渡辺 富衛
- 下越教育事務所社教課副参事(司会) 小宮 皓
- 指導講師 下越教育事務所社教課長 桑原 昭二

榎本氏 「週休二日制の普及と公民館の在り方」について職員の勤務実態をもとに①住民は、個人として自立してきており、自己学習力については、公民館は事業のスリム化を図るべき。②近年、町内会等の自治活動で、「町内生涯学習推進協議会」を結成し、「心のふれあい」に主眼をおく活動に取り組むなど、様変わりしている。こうした面に公民館の援助が必要になっている。③ボランティアの活動に期待が寄せられている。自己犠牲の奉仕から、自己実現の方法と捉えることが大切である、と主張していた。

資料紹介

芭蕉句碑の研究書

「にいがた芭蕉の会」で刊行予定

越後・佐渡全域にある芭蕉句碑九十七基全部を訪ね歩いて、所在地、大きさ、建立年(月日)、

石質、建立事情、句の出典、解説などの詳細を一冊にまとめた書。近く発刊予定

長野氏 「国際化社会の到来と公民館の在り方」についてアメリカの大学のある町として、親睦のイベントも密度の濃い中で体験をとおした国際交流の問題を提起していた。①真の国際理解や交流は、興味本位のイベントで終始することではない。②その国の民族性や、文化・生活の違いを正しく知るための踏み込んだ交流が必要。③そのためには、町としての国際交流像を確立する必要があり、と主張。

渡辺氏 「生涯学習の進展と公民館の在り方」に焦点をあて、「生涯学習」に関する村民の意識調査を実施した結果、学習の

必要については53%でありながら公民館の学習参加率はその半分以下という低率。そのことから、①学習情報が伝わらないことに対し、手作り公民館報「ふれあい」を月2回発行することにした。そのため公民館への参加率が上昇した。公民館の情報提供や相談事業は欠かせない。

あとがき

おわびと訂正
前月号七面のサークル交流欄のうち「個性豊かな絵かき仲間」を投稿くださった和久井洋子さんのサークル「えとせとら」の所属が中条町とあるのは十日町市中条の誤りでした。編集部の不注意によりご迷惑をおかけしたことを深くおわびし訂正いたします。(上村)

芭蕉没後300年記念
越佐芭蕉句碑を歩く

越後、佐渡における芭蕉の全句碑を訪ね歩いた、県下初の集大成！
本文 全句碑写真入り
解説 日本俳文学会会員 村山 砂田男

解説者紹介
・日本近代詩歌文学館委員
・俳人協会員(新潟県副支部長)
・朝日新聞新潟俳壇俳句選者
・「俳句と俳文学」講師
・俳誌「砂やま」主宰

B6判 約120ページ
(ビニールカバー付き)
定価 1,300円(税込)
(郵送料1冊260円20部以上は当方負担)

発刊予定 平成5年10月20日
申込先 ☎951新潟市川岸町2-2-10
長谷川清照 宛て
☎(025)-265-2079

発行所 新潟県公民館連合会
【新潟市川岸町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟 (025) 224-6073】

発行人 会長 細川 正博
編集人 事務局長 上村 捨二郎
【定価1部130円 年共1,560円】